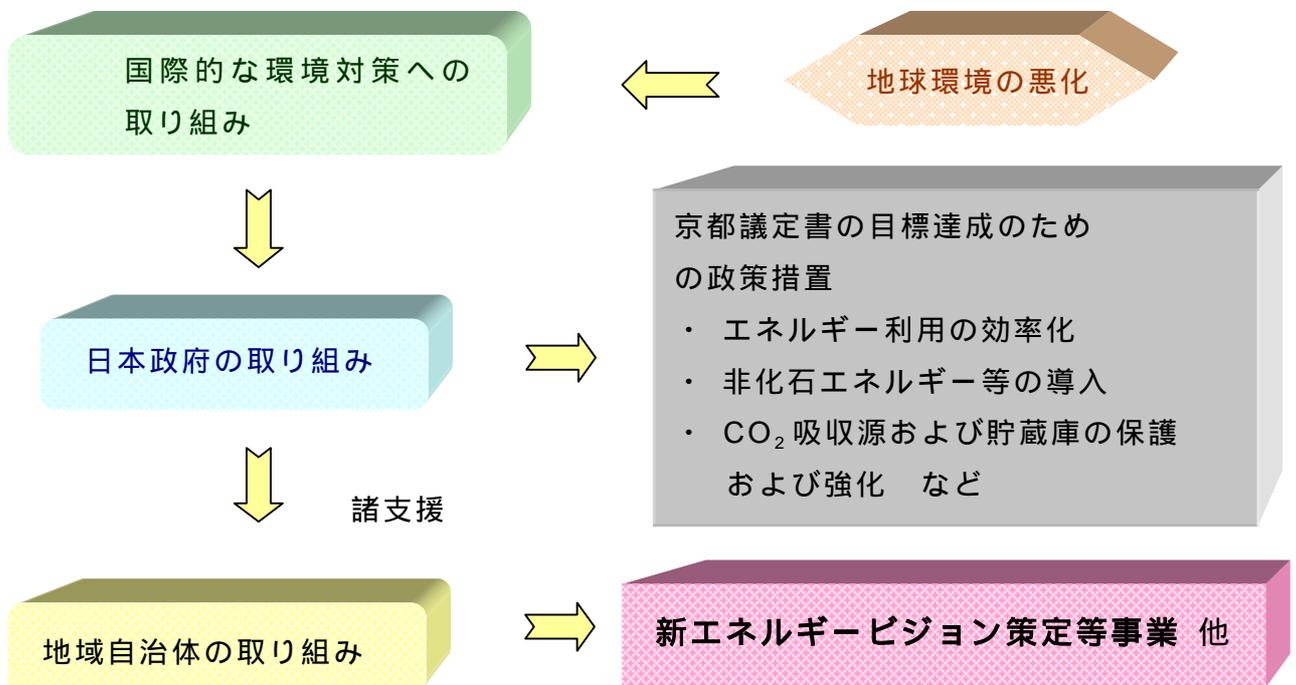


序 章

1. 本事業の背景

地球環境の問題は、ますます深刻さを増してきている。2002年、地球温暖化防止をめざす京都議定書（気候変動枠組条約第3回締約国会議で採択）が国会で可決承認され、批准書が国連に提出された。一方、わが国は石油、LNGなど多くのエネルギー資源供給を海外からの輸入に頼ってきた。さらに近年、原子力発電所トラブルに端を発して、日本のエネルギー供給構造は非常に脆弱であることが露呈されている。

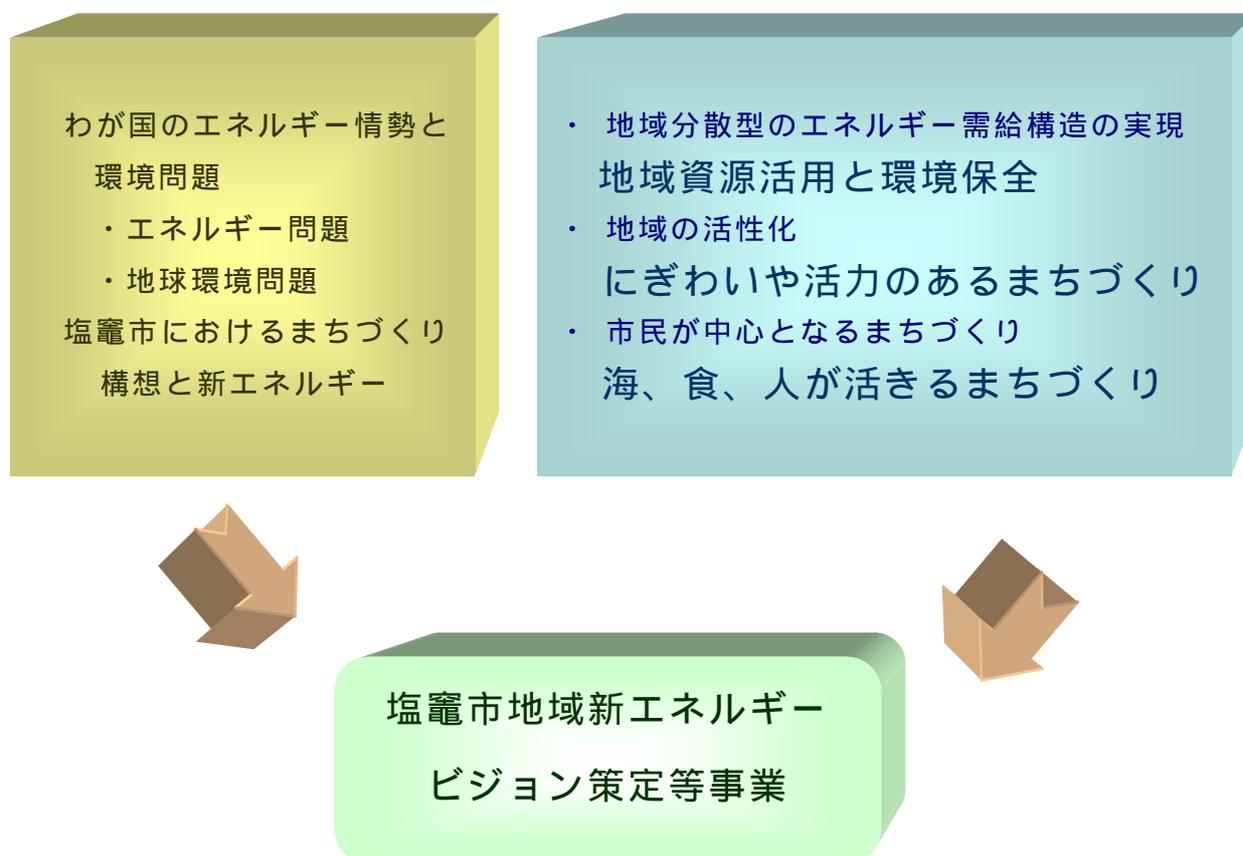
新エネルギービジョン策定等事業の展開にあたっては、地域環境の維持・向上ならびに地域分散型のエネルギー供給体制検討のために、新エネルギーについて、自治体、市民、市内事業者が一体となって、気候風土、産業構造、生活環境等の地域特性を反映した地域独自のエネルギービジョンを描き、当地域のまちづくりの一環として、具体的な施策や設備導入の検討に取り組むこととした。



2. 塩竈市におけるまちづくり構想と新エネルギー

この新エネルギービジョンは「第四次塩竈市長期総合計画」および「塩竈市環境基本計画」の実行プランのひとつに位置づけられている。この計画方針に沿って、「自然と共生し環境負荷の少ない快適に暮らせるまちづくり、塩竈市の特性と地域資源を生かしたまちづくり」を、新エネルギーの切り口から具体的に推進することとした。

新エネルギービジョンを策定し、それを実現するにあたっては、市民や事業者の積極的な参画・協力が不可欠なものとなるため、市民や事業者の意見・希望を聴取し、これらをビジョンに反映させるものとした。



3. 事業の目的

わが国のエネルギー政策や新エネルギーの開発・導入状況をふまえて、新エネルギーの利用に関する総合的かつ長期的なビジョンを提案し、地域のだれもが「ここに住んで良かった」と実感できるような、塩竈市の豊かな未来を実現することを目的とする。

4. 調査検討事項

本事業では、下記事項について調査および検討を行う。

(1) ビジョン策定の背景と必要性

(2) 新エネルギービジョン策定の基本方針

(3) 塩竈市の現状と市内アンケート調査

(4) 塩竈市の新エネルギー導入に関する可能性

(5) 新エネルギー導入プロジェクト

(6) 推進体制とスケジュール

凡 例

1. 本書で使用する資料は、官公庁、民間団体などの提供によるもの、または本市において直接調査収集したものです。

2. 本書で使用する単位と換算値

- ・ 容量を表す単位「リットル (ℓ)」は「L」で表しました。
- ・ 本調査では次の名称と記号を使用しました。

倍 数	名 称	記 号
$10^{15} = 1,000,000,000,000,000$	ペタ	P
$10^{12} = 1,000,000,000,000$	テラ	T
$10^9 = 1,000,000,000$	ギガ	G
$10^6 = 1,000,000$	メガ	M
$10^3 = 1,000$	キロ	k

- ・ 本調査では次の換算値を使用しました。

換 算 値	備 考
1 kcal = 4.18605 kJ	
1 kWh = 3.6×10^3 kJ	
原油 1kL の発熱量 = 38.72×10^6 kJ	原油換算

- ・ 本調査では次の CO₂ 排出原単位を使用しました。

エネルギー種類	排出原単位 (kg - CO ₂ / MJ)
原油	0.069
灯油	0.0685
都市ガス	0.0513
電力	0.378

出所) 環境省 (2002 年)

3. 計算過程で四捨五入の処理がしてあるため、合計等の数値が一致しないこともあります。